

浅間山周辺の植物標本写真目録

2015

長野原町教育委員会

はじめに

長野原町教育委員会

文化財調査委員長 市村勝美

このほど、「浅間山周辺の植物標本写真目録」が作成されたことは、感慨深いものがあります。

今回の写真目録は、昭和52年頃町営浅間園の博物館事業の一環で浅間山周辺で採集された植物を標本に整理し、活用を図ってきました。

平成5年6月には新たに浅間火山博物館が建てられ、旧展望台は閉鎖されました。

その後旧展望台の解体を機に保存されていた資料が見つかり、その一つが今回の植物標本です。

この標本は、浅間山周辺の植物を全部網羅しているわけではありませんが、今では貴重な植物もあり、標本にして保存されていたことはたいへん有意義なことです。

教育委員会では、標本を後世に残すべく写真目録にまとめることにしました。

写真目録の作成にあたって、町文化財調査委員の方々のご協力、また多くの方々のご指導によりまとめることができました。心より感謝申し上げます。

最後に、この植物標本及び写真目録が多方面で活用されることを願って「はじめに」の挨拶とさせていただきます。

凡 例

1. 昭和52年頃旧町営浅間園の博物館事業の一環で、当時の二上館長の指導のもと職員が採集し、押し花に整理され保存されていた物が見つかった。

その後町教育委員会に預けられ町の文化財調査委員と協議した結果、押し花の植物標本を後世に残すため、写真目録の作成をすることになった。

2. 写真目録の構成及び表記は以下のとおりである。

- ・標本及び花木の写真は、明暗等の修正をしたため若干実物と異なる場合がある。
- ・標本と一緒に実際の花木の写真も載せ、対比できる様にした。
- ・標本は科ごとに科名・植物名・採集年月・標本番号・頁を一覧表で示し、また採集年月がわからない物は未記載とした。
- ・標本の花木の写真には花期・生育地・備考等内容を示した。生育地については場所の特定はせず一般的な表記とした。
- ・参考に「植物の用語」・「葉のつきかた」を資料として掲載しておいた。
- ・標本の科の配列、和名は「長野原町の自然 長野原町」(1993)による。
- ・標本の同定には、「牧野新日本植物図鑑」をもとに特定したため、平成26年度現在では、その種の変種や品種と細かく分類されている物もあると思うが、採集当時のままの分類で作成しておいた。

3. 写真目録の作成にあたり、以下の方々のご指導、ご協力をいただいた。ここに記して感謝申し上げます。

- ・標本の整理作成は、市村敏氏（現長野原町副町長）が行った。
- ・「浅間高原の概要」と「浅間山周辺の植生分布」の記述は町文化財調査委員宮崎敏夫氏に協力していただいた。
- ・花木の写真提供は、町文化財調査委員宮崎敏夫氏に協力していただいた。
- ・標本の写真撮影及び内容の記述については、町文化財調査委員の方々の協力をいただいた。

長野原町文化財調査委員の方々

市村 勝美（委員長） 小林 清（副委員長） 宮崎 敏夫（委員）
豊田 拓司（委員） 加邊 敬子（委員）

目 次

はじめに

凡 例

目 次

浅間高原の概要 1

浅間山周辺の植生分布 2

植物標本

植物標本科別・植物名一覧表 5

資料写真・解説 15

参考文献 234

植物用語・葉のつきかた 235

植物名索引（50音順） 237

あとがき

浅間高原の概要

浅間山(2,568m)は群馬県と長野県の県境にそびえる日本を代表する活火山です。そして、この山から西方に黒斑山(2,404m)、箆ノ登山(2,227m)、湯の丸山(2,101m)など 2,000m 級の山々が続き浅間連峰を形ついています。その山々の北側(群馬県側)には標高 1,000m 前後の広大な高原が広がっており、上信越国立公園にも指定された豊かな自然の宝庫となっています。一般的にこの一帯を「浅間高原」と呼んでいます。

気象的には、表日本、裏日本の海洋性気候と異なり、本州中央高原型気象域であり、夏でも涼しく、日中と夜間の気温較差も大きく冬は-20 度位まで下がる場合があります。ちなみに、平成 6 年の鬼押し出し町営浅間園付近の観測記録では、年間平均気温は 7.6 °C、最高気温は 7 月の 30.4 °C、最低気温は 1 月の-12.2 °Cの記録があります。雨量は年間 1,300 mm位で、積雪は鬼押し出し付近で 50 cm位で多くは積もりません。浅間山北面から小浅間方面は風の最も強い地域です。

地質的にはフォッサマグナ地帯に属すると考えられており、活火山の浅間山に接した新生代第三紀末から第四紀の中頃にかけての火山地帯であり、広大な裸地が広がり六里ヶ原などの裾野は火砕流、軽石などに被われています。

植物の分布は、その地域の地史的、地質的、気象的あるいは生物的などの環境要因により影響を受けて成り立っています。特に気象条件はいちばんの限定要因となります。また、一定地域内の植物分布の様子を植物相(フロラ)といいます。植物分布を区分したのが植物区系です。

前川文夫博士は 1976 年「日本の植物区系」で日本の植物区系を 9 区域に分け(別図①)その後須藤志成幸先生は「群馬の植物散歩」1982 年で群馬の植物区系(別図②)を作成されました。それによりますと浅間高原は、日本海地域、フォッサマグナ地域に属し、それぞれの区域を特徴づける植物を日本海要素、フォッサマグナ要素と言います。

この区分は、日本固有の特徴的な植物に基づいてのものであり、これらの地域にはこの 2 つの要素に属さない関東要素の植物、古いタイプの日本固有の植物、そはやき要素の植物、北方などから渡来した植物、第三紀周北極植物の残存したもの、中国大陸やヒマラヤ北方と関連した植物、南方系の植物、帰化植物などが多数分布しています。

この標本目録には、フォッサマグナ要素に属するとされる植物は、ニシキウツギ、トモエシオガマ、ヤマホタルブクロが、そはやき要素の植物は、ヒカゲツツジ、クワガタソウが、日本固有の植物は、カツラ、アズマギクが、北方などから渡来した植物は、ガンコウラン、マイヅルソウが、中国大陸やヒマラヤ北方と関連した植物は、フタリシズカ、ウワバミソウ、アキノキリンソウ、チゴユリ、ウメバチソウが、帰化植物は、オオバコが採集されています。また分布上貴重とされるカラフトイバラ、グンバイヅル、シャジクソウも採集されています。



別図 1

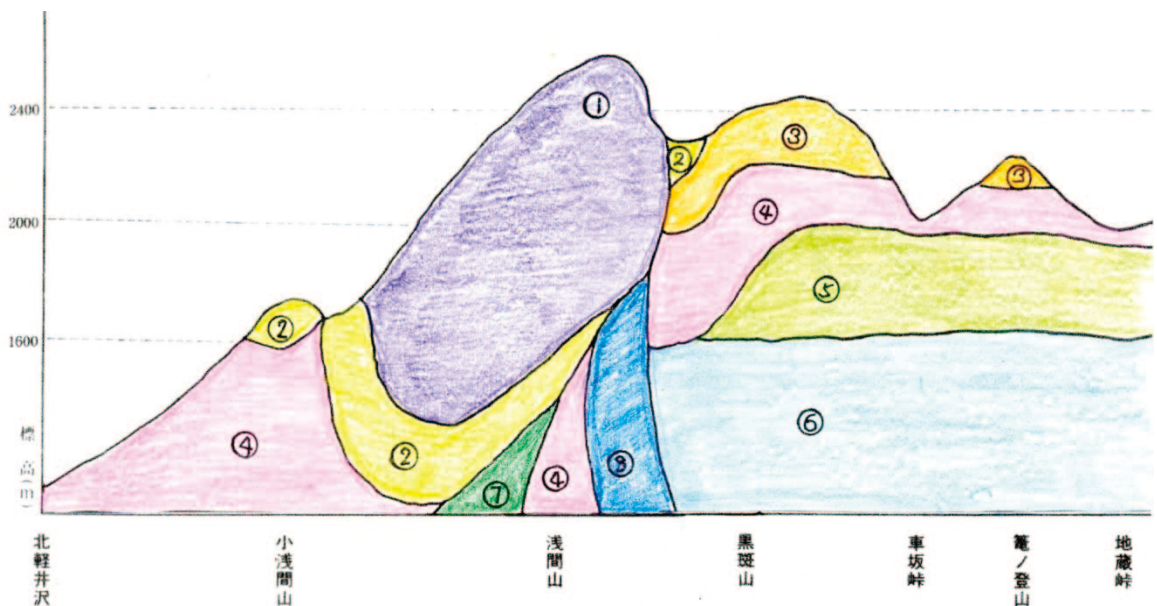


別図 2

浅间山周辺の植生分布

植生とは、植物の集団(群落)がどのようにして、地表を被っているかということです。植生分布は主として気候要因によって決する。その中でも特に気温と雨量が限定要因として働きます。

浅间高原は、浅间山の活動のために、これらの植生もその影響をうけさまざまな変化をみせてくれ、火山荒原からの植物群落の移り変わりが一目で観察できます。



- ① 自然裸地
- ② 火山崩壊地植生(コメススキーオンタデ荒原)
- ③ 亜高山針葉樹林帯(シラビソ林)
- ④ 山地広葉樹林帯(ミズナラ林)
- ⑤ クマイザサ草原
- ⑥ カラマツ植林
- ⑦ アカマツ林
- ⑧ 溶岩台地植生

1783年(天明3年)の浅间山の大噴火のときに流れ出した鬼押し出し溶岩流の上です。噴火当時、噴出したばかりの溶岩には、植物を育てる養分はありません。そこには、いろいろな植物の種や胞子が飛んできます。そのうち最初に生育できるのはハナゴケなどの地衣類です。これらが生えたり枯れたりして土を作りつぎに草や木を育てる準備をするのです。現在鬼押し出し溶岩は噴出して230年余り経過しましたが、ようやく日なたを好むカラマツ、アカマツ、ヤシャブシなどが生えてきました。湿り気のある岩陰には、高山性植物も生えています。一般には、標高2400メートル以上の高所でなければ見られない植物なども見られます。

(浅间火山博物館資料より)

植物標本科別・植物名一覽表

植物標本科別・植物名一覧表

科名	植物名	採集年月	標本番号	頁
ヤナギ科	イヌコリヤナギ	昭和52年7月	1	15
	バッコヤナギ	昭和52年7月	2	16
カバノキ科	サワシバ	未記載	1	17
	ヤシャブシ	昭和52年8月	2	18
	ヤマハンノキ	昭和52年7月	3	19
ブナ科	カシワ	昭和52年8月	1	20
	クリ	未記載	2	21
	ブナ	昭和53年5月	3	22
ニレ科	ケヤキ	昭和52年9月	1	23
	ハルニレ	昭和52年9月	2	24
クワ科	カナムグラ	未記載	1	25
	カラハナソウ	昭和52年8月	2	26
	クワ	昭和52年7月	3	27
	ヤマグワ	未記載	4	28
イラクサ科	ウワバミソウ	昭和53年6月	1	29
タデ科	イタドリ	昭和52年7月	1	30
	クリンユキフデ	昭和53年6月	2	31
	スイバ	昭和52年7月	3	32
	タニソバ	昭和52年9月	4	33
	ミズヒキ	昭和52年8月	5	34
	ヤナギタデ	昭和52年8月	6	35
ナデシコ科	カワラナデシコ	昭和52年8月	1	36
	ナンバンハコベ	昭和52年8月	2	37
モクレン科	コブシ	昭和52年7月	1	38

科名	植物名	採集年月	標本番号	頁
クスノキ科	アブラチャン ダンコウバイ	昭和52年9月	1	39
		昭和52年9月	2	40
カツラ科	カツラ	昭和52年7月	1	41
キンポウゲ科	キバナノヤマオダマキ	昭和52年7月	1	42
	サラシナショウマ	昭和53年6月	2	43
	トウゴクサバノオ	未記載	3	44
	ハクサンイチゲ	未記載	4	45
	ハンショウヅル	昭和52年7月	5	46
	ボタンヅル	昭和52年8月	6	47
	ミヤマハンショウヅル	昭和53年6月	7	48
	ヤマトリカブト	昭和52年8月	8	49
	ルイヨウショウマ	昭和53年6月	9	50
メギ科	ルイヨウボタン	昭和53年6月	1	51
アケビ科	アケビ ミツバアケビ	昭和52年7月	1	52
		昭和52年6月	2	53
センリョウ科	フタリシズカ	昭和52年7月	1	54
マタタビ科	マタタビ	昭和52年7月	1	55
オトギリソウ科	トモエソウ	未記載	1	56
ケシ科	ヤマエンゴサク	昭和53年5月	1	57
アブラナ科	オオバタネツケバナ	昭和53年6月	1	58
	コンロンソウ	昭和53年5月	2	59
	ヤマハタザオ	昭和52年7月	3	60
	ワダソウ	昭和53年5月	4	61
ベンケイソウ科	ベンケイソウ	昭和52年9月	1	62

科名	植物名	採集年月	標本番号	頁
ユキノシタ科	イワネコノメソウ	昭和53年5月	1	63
	ウメバチソウ	昭和52年8月	2	64
	コアジサイ	昭和53年6月	3	65
	ツルデマリ	昭和52年7月	4	66
	ニッコウネコノメ	昭和53年5月	5	67
	ネコノメソウ	昭和53年5月	6	68
	バイカウツギ	昭和53年6月	7	69
	ヒメウツギ		8	70
バラ科	アズキナシ	昭和52年9月	1	71
	イヌザクラ	昭和53年6月	2	72
	カラフトイバラ	昭和53年6月	3	73
	キジムシロ	未記載	4	74
	クマイチゴ	未記載	5	75
	コゴメウツギ	昭和53年6月	6	76
	サビバナナカマド	昭和53年6月	7	77
	シモツケ	未記載	8	78
	シモツケソウ	未記載	9	79
	ズミ	昭和52年8月	10	80
	ダイコンソウ	昭和52年7月	11	81
	ニガイチゴ	昭和52年6月	12	82
	ミツモトソウ	未記載	13	83
	ミヤマザクラ	昭和53年6月	14	84
	モミジイチゴ	昭和53年5月	15	85
	ヤマブキショウマ	昭和52年7月	16	86
マメ科	イヌエンジュ	未記載	1	87
	クサフジ	未記載	2	88
	クララ	未記載	3	89
	コマツナギ	未記載	4	90
	シャジクソウ	昭和52年6月	5	91
	フタバハギ	昭和52年8月	6	92
	ミヤコグサ	昭和52年7月	7	93
	ヤブマメ	昭和52年8月	8	94
フウロソウ科	ゲンノショウコ	昭和52年9月	1	95
	タチフノウ	昭和52年8月	2	96
	ハクサンフウロ	未記載	3	97
ミカン科	キハダ	昭和52年9月	1	98
ガンコウラン科	ガンコウラン	昭和52年4月	1	99

科名	植物名	採集年月	標本番号	頁
ドクウツギ科	ドクウツギ	昭和52年9月	1	100
カエデ科	イタヤカエデ	未記載	1	101
	ウリカエデ	未記載	2	102
	ウリハダカエデ	昭和52年7月	3	103
	オガラバナ	昭和52年8月	4	104
	チドリノキ	未記載	5	105
	ハウチワカエデ	昭和52年5月	6	106
	ミツデカエデ	昭和52年7月	7	107
	ミネカエデ	昭和52年5月	8	108
ツリフネソウ科	キツリフネ	昭和52年7月	1	109
ニシキギ科	オオツリバナ	昭和53年5月	1	110
	コマユミ	未記載	2	111
	ツルマサキ	昭和52年7月	3	112
	ニシキギ	昭和53年6月	4	113
	ヒロハツリバナ	昭和53年5月	5	114
	マユミ	昭和53年6月	6	115
ミツバウツギ科	ミツバウツギ	未記載	1	116
クロウメモドキ科	クマヤナギ	昭和52年8月	1	117
ブドウ科	エビヅル	昭和52年8月	1	118
シナノキ科	シナノキ	昭和53年5月	1	119
スマレ科	アオイスミレ	昭和53年6月	1	120
	アカネスミレ	昭和53年5月	2	121
	サクラスマレ	昭和53年5月	3	122
	シロスミレ	昭和52年6月	4	123
	タチツボスマレ	昭和52年5月	5	124
	ヒナスミレ	昭和53年5月	6	125
キブシ科	キブシ	昭和53年4月	1	126

科名	植物名	採集年月	標本番号	頁
ウリ科	ミヤマニガウリ	昭和52年7月	1	127
アカバナ科	アカバナ タニタデ	昭和53年5月	1	128
			2	129
ミズキ科	ゴゼンタチバナ ミズキ ヤマボウシ	昭和53年6月 昭和52年7月 未記載	1	130
			2	131
			3	132
ウコギ科	コシアブラ ヤマウコギ	昭和52年7月 昭和52年5月	1	133
			2	134
セリ科	イブキボウフウ ウマノミツバ シラネセンキュウ セントウソウ タニミツバ ノダケ ミヤマニンジン	昭和52年8月 昭和52年7月 昭和52年9月 昭和53年6月 昭和52年8月 昭和52年8月 昭和52年8月	1	135
			2	136
			3	137
			4	138
			5	139
			6	140
			7	141
リョウブ科	リョウブ	昭和52年7月	1	142
イワウメ科	イワカガミ	昭和52年6月	1	143
イチヤクソウ科	コバノイチヤクソウ ジンヨウイチヤクソウ ベニバナイチヤクソウ	昭和52年7月 昭和52年7月 未記載	1	144
			2	145
			3	146
ツツジ科	ウスノキ サラサドウダン ツガザクラ ハナヒリノキ ヒカゲツツジ ムラサキヤシオツツジ	未記載 昭和53年6月 昭和52年7月 昭和52年8月 昭和53年5月 昭和53年5月	1	147
			2	148
			3	149
			4	150
			5	151
			6	152
サクラソウ科	オカトラノオ ツマトリソウ	昭和52年7月 昭和52年6月	1	153
			2	154

科名	植物名	採集年月	標本番号	頁
エゴノキ科	ハクウンボク	未記載	1	155
ハイノキ科	サワフタギ	昭和52年7月	1	156
モクセイ科	アオダモ(コハトネリコ)	未記載	1	157
	イボタノキ	未記載	2	158
	トネリコ	昭和53年6月	3	159
	ハシドイ	昭和53年6月	4	160
	ヒイラギ	昭和52年9月	5	161
	ミヤマイボタ		6	162
リンドウ科	アケボノソウ	昭和52年9月	1	163
	ツルリンドウ	未記載	2	164
	リンドウ	昭和52年10月	3	165
ガガイモ科	イケマ	昭和52年7月	1	166
アカネ科	アカネ	昭和52年7月	1	167
	カワラマツバ	昭和52年7月	2	168
	クルマバソウ	昭和53年6月	3	169
	ヘクソカズラ	昭和52年8月	4	170
	ヨツバムグラ	昭和53年6月	5	171
ヒルガオ科	ヒルガオ	昭和52年8月	1	172
ムラサキ科	タチカメバソウ	昭和52年7月	1	173
クマツヅラ科	ムラサキシキブ	昭和52年7月	1	174
シソ科	イブキジャコウソウ	昭和52年7月	1	175
	ウツボグサ	昭和52年7月	2	176
	カキドオシ	昭和52年5月	3	177
	カワミドリ	昭和52年9月	4	178
	クルマバナ	未記載	5	179
	セキヤノアキチヨウジ	昭和52年9月	6	180
フジウツギ科	フジウツギ	昭和52年8月	1	181

科名	植物名	採集年月	標本番号	頁
ゴマノハグサ科	クワガタソウ	昭和53年6月	1	182
	ゲンバイヅル	昭和52年7月	2	183
	タチコゴメグサ	昭和52年8月	3	184
	トモエシオガマ	昭和52年8月	4	185
	ヒメトラノオ	昭和52年8月	5	186
	ママコナ	昭和52年8月	6	187
ハエドクソウ科	ハエドクソウ	昭和52年7月	1	188
オオバコ科	オオバコ	昭和52年7月	1	189
スイカズラ科	オニヒョウタンボク	昭和53年5月	1	190
	ガマズミ	昭和53年6月	2	191
	カンボク	昭和52年6月	3	192
	スイカズラ	昭和52年7月	4	193
	ニシキウツギ	昭和53年6月	5	194
オミナエシ科	オトコエシ	昭和52年8月	1	195
	オミナエシ	昭和52年8月	2	196
	コキンレイカ	昭和52年7月	3	197
マツムシソウ科	マツムシソウ	昭和52年8月	1	198
キキョウ科	キキョウ	昭和52年10月	1	199
	タニギキョウ	昭和53年6月	2	200
	ヤマホタルブクロ	昭和52年7月	3	201
キク科	アキノキリンソウ	昭和52年9月	1	202
	アズマギク	昭和53年6月	2	203
	ウスユキソウ	昭和52年9月	3	204
	オケラ	昭和52年7月	4	205
	オトコヨモギ	昭和52年9月	5	206
	カセンソウ	未記載	6	207
	コウリンカ	未記載	7	208
	セイヨウノコギリソウ	未記載	8	209
	センボンヤリ	昭和53年5月	9	210
	ノブキ	昭和52年8月	10	211

科名	植物名	採集年月	標本番号	頁
ユリ科	アマドコロ	未記載	1	212
	クマバツクバネソウ	昭和53年6月	2	213
	サルトリイバラ	昭和52年9月	3	214
	シオデ	昭和52年9月	4	215
	スズラン	昭和52年6月	5	216
	タケシマラン	昭和52年5月	6	217
	チゴユリ	昭和52年5月	7	218
	ツクバネソウ	昭和52年6月	8	219
	ナルコユリ	昭和52年6月	9	220
	ホソバノアマナ	昭和53年5月	10	221
	マイヅルソウ	昭和52年6月	11	222
	ユキザサ	昭和52年7月	12	223
	ワニグチソウ	昭和52年5月	13	224
ヤマノイモ科	ウチワドコロ	昭和52年7月	1	225
ラン科	オノエラン	未記載	1	226
	ササバギンラン	昭和52年6月	2	227
	ジガバチソウ	昭和52年7月	3	228
	ネジバナ	昭和52年8月	4	229
	ハクサンチドリ	昭和52年7月	5	230
	ホソバノキソチドリ	昭和52年7月	6	231
	ミズチドリ	昭和52年7月	7	232
	ミヤマモジズリ	昭和52年8月	8	233

資料写真及び解説



科名 ヤナギ科
標本番号 1
植物名 イヌコリヤナギ
採集年月 昭和52年7月



花期 4～5月
生育地 川のふちや湿地
備考 高さ2～3mで川や池のふちの
湿ったところに多い落葉低木。
葉は対生で葉柄がなく、葉の
もとが茎を抱く形になる。
花の穂は2cm内外。雌雄異株。



科名 ヤナギ科
標本番号 2
植物名 バッコヤナギ
採集年月 昭和52年7月



花期 4～5月
生育地 山地
備考 落葉小高木で高さは5～10mになり、葉は互生し裏には白色の縮れた毛が密生する。雌雄異株で雄花の穂は太く、花が咲くと葯の黄色が美しい。雌花の穂は小さくて緑色を帯びる。



科名 カバノキ科
標本番号 1
植物名 サワシバ
採集年月



花期 4～5月
生育地 山地
備考 水分が多く肥えた地に生える落葉高木。幹は直立し大きなものは高さ10mぐらいになる。葉は互生。花は新葉と同時に開く。雄花の尾状花穂は緑黄色で小枝から垂れ下がり細かい花を密につける。雌花の穂は柄があり、新枝の先から垂れ下がり、細かい花をつけ緑色である。



科名 カバノキ科
標本番号 2
植物名 ヤシャブシ
採集年月 昭和52年8月



花期 4～5月
生育地 山地
備考 日当たりのよい山地に生育し、
高さは5～7mぐらい。雄花穂
は葉の出る前に枝先に、雌花
は雄花の下の短枝に開く。
球果は2個つき染料に使う。



科名 カバノキ科
標本番号 3
植物名 ヤマハンノキ
採集年月 昭和52年7月



花期 4～5月
生育地 山野
備考 山地や平地に生える落葉高木で高さ15m
近くになる。葉は互生し広楕円形あるいは
ほぼ円形で、葉のふちは5～8個に浅裂す
る。雌雄同株。春、葉が伸びるより先に開
花する。



科名 ブナ科
標本番号 1
植物名 カシワ
採集年月 昭和52年8月



花期 5月
生育地 各地の山野
備考 山野に生える落葉高木。幹は直立して太い枝を出し大形の葉がつく。高さは10～15mになり、樹皮には深い裂け目がある。葉は互生で葉のふちには大形の波状きょ歯がある。秋に枯れるが落葉しないで越冬する。雌雄同株で、雄花の尾状花穂は新枝の基部から多数垂れ下がり、黄褐色の小さな花をつける。雌花の花穂は短く、新枝の葉腋から出て少数の花をつける。実のドングリは球形で、はかまには多数の鱗片が生えている。昔は食物を盛る葉はすべてカシワだった。



科名 ブナ科
標本番号 2
植物名 クリ
採集年月



花期 7～8月
生育地 各地の山地
備考 山地に生え、また果樹としても栽植される落葉高木で、高さ20m近くなる。花は初夏に葉の付け根から穂を伸ばして、小さな花を多数つける。この穂は雄花で雌花は穂の付け根付近につく。実は食用に、材は建築材などに使われる。



科名 ブナ科
標本番号 3
植物名 ブナ
採集年月 昭和53年5月



花期 5～6月
生育地 山地
備考 やや高い山に生える落葉高木。
幹は直立して大きいものは高さ
30mにもなり、樹皮は平滑で灰
色、葉は2列生で互生。花は新
葉が出ると同時に咲く。
雌雄同株。



科名 ニレ科
標本番号 1
植物名 ケヤキ
採集年月 昭和52年9月



花期 5月
生育地 山地
備考 山地に生える落葉高木。最大高さ30m、径2mにもなる。葉は互生し、花は新葉と同時に淡黄緑色の細かい花を開く。雌雄同株で雄花は数個ずつ新枝の下部につき、雌花は新枝の上部の葉腋に1個つく。



科名 ニレ科
 標本番号 2
 植物名 ハルニレ
 採集年月 昭和52年9月



花期 4～5月
 生育地 山地
 備考 山地に多い落葉高木。高さ30mにも達する。若枝には軟毛が多いが、やがて落ち、2年枝は無毛。樹皮は縦にやや深い割れ目がある。葉は触るとザラザラする。早春、葉が出る前に花卉のない小さな花が古枝に咲くが、ほとんど目立たない。実は長さ1cmぐらいで薄い羽があり、上の標本写真のように軍配うちわの形をしている。木は街路樹に使われる。



科名 クワ科
標本番号 1
植物名 カナムグラ
採集年月



花期 8～9月
生育地 原野・道ばた
備考 原野・道ばた荒地に多いつる性の一年草。茎は緑色で長く伸び、葉柄とともにざらつき、刺を多くもち、他物にからまりつく。葉は互生で掌状に5～7個に裂み葉面はざらざらしている。花は秋、雌雄異株。和名のカナは鉄の意味で茎が強いから。



科名 クワ科
標本番号 2
植物名 カラハナソウ
採集年月 昭和52年8月



花期 8～10月
生育地 山の林の中
備考 つる性の多年草。茎は長く強い
つるとなり、さかんに他の草木に
巻きついて茂る。葉は対生で葉
面はざらつく。雌雄異株。雌花は
多数集まり円錐形となり、雄花は
りん片のような花がまつかさのよ
うな形に集まる。ビールに使われ
るホップと同じ仲間。



科名 クワ科
標本番号 3
植物名 クワ
採集年月 昭和52年7月



花期 4～5月
生育地 畑
備考 日本各地の温帯から亜熱帯に分布。山地に生える。畑に栽植する落葉高木。花は春。雌雄異株、ときに同株。花弁はない。同株もある。果穂は初夏に黒紫色に熟し、食べられる。和名はカイコの食す葉という意味である。



科名 クワ科
標本番号 4
植物名 ヤマグワ
採集年月



花期 5～6月
生育地 山地
備考 栽培されるクワのひとつで、山に生える落葉高木。葉は互生。雌雄異株または同株。花は5～6月に咲く。実は6～7月に熟し赤から黒に変わる。クワの間には多くの養蚕用の園芸品種があり、葉だけでは同定は難しい。



科名 イラクサ科
標本番号 1
植物名 ウワバミソウ
採集年月 昭和53年6月



花期 4～5月
生育地 山地の湿地斜面
備考 山地の湿った斜面に群生する多年草。茎は無毛で水分を多く含む。長さ30～40cm。葉は無柄で互性し、左右不同で長楕円形。花は4～5月頃、葉腋につける。雌雄異株。ミズ、ミズナともよばれ、山菜として食べる地方もある。



科名 タデ科
標本番号 1
植物名 イタドリ
採集年月 昭和52年7月



花期 7～9月
生育地 林のふちなど
備考 山野のどこにでも多く生える大形の多年生草木。丈は30cm～150cmになる。葉は互生し枝上の葉腋や、枝先に小さな花が穂になり、上向きにつく。花の色は白色から紅紫色まで株により変化に富む。冬には木質の枯れた茎が残る。雌雄異株。イタドリ類は若い茎を食用とされる。



科名 タデ科
標本番号 2
植物名 クリンユキフデ
採集年月 昭和53年6月



花期 5～6月
生育地 湿性林下
備考 高原の湿地の木の下に生える
多年草で緑色。茎は直立し高さ
15～40cmぐらいで分枝しない。
花は白色で葉腋に穂状につく。



科名 タデ科
標本番号 3
植物名 スイバ
採集年月 昭和52年7月



花期 5～8月
生育地 野原・人家付近
備考 野原や人家近くに多い雌雄異株の多年生草木。茎は全体に赤みをおび、高さ30～100cmになる。花は茎の先が分枝し、円錐花穂となり、淡緑色あるいは緑紫色の小花を多数つける。和名は酸っぱい葉の意味で若葉は食用になる。



科名 タデ科
標本番号 4
植物名 タニソバ
採集年月 昭和52年9月



花期 7～10月
生育地 湿地または原野や山地の日陰
備考 原野や山地の日陰や湿地に
生える一年草。茎は赤みを帯
び無毛でよく分枝し、高さ10～
50cm。葉は長さ1～9cm。幅は
0.5～3cm。葉柄には広い翼が
あり、基部は茎を抱く。夏から秋
にかけて、葉腋または枝先に頭
状に多数の小花を集めてつける。
花は白色で紅色をおびる。



科名 タデ科
標本番号 5
植物名 ミズヒキ
採集年月 昭和52年8月



花期 8～10月
生育地 野山の林
備考 野山の林でよく見かける草で、
丈は50～80cm、葉は長さ7～
15cm。花は長い枝に点々とつ
き、直径約5mm、4枚の紅色の
がくが花びらのように見える。
和名はこの花の穂を紅白の水
引きにたとえた。



科名 タデ科
標本番号 6
植物名 ヤナギダテ
採集年月 昭和52年8月



花期 7～10月
生育地 水湿地
備考 高さ30～80cmの一年草。葉は長く両端が細まる。直立した茎に花がまばらにつき、上部が垂れる。
マタデともいい、辛味があり食用にされる。和名は葉がヤナギの葉に似ているから。



科名 ナデシコ科
標本番号 1
植物名 カワラナデシコ
採集年月 昭和52年8月



花期 7～9月
生育地 山野
備考 秋の七草のひとつとして日本人に大変親しまれている花である。山野の陽あたりのよい草原に生え茎は直立し高さ30～100cmになる。花の色は薄い赤色で茎の先に3～4cmほどの花を数個つける。



科名 ナデシコ科
標本番号 2
植物名 ナンバンハコベ
採集年月 昭和52年8月



花期 7~9月
生育地 山の林のへり
備考 山野に生える多年生草木で、茎は細く、長さは1.5m以上でまわりの草や木によりかかって伸びる。葉は対生。花は2cm内外。がくははじめ筒形であるが、花が開くと丸くふくらみ、先が5つに裂ける。果実は液果状で黒く熟す。花の形が変わった形をしているので「南蛮」の名がついた。



科名 モクレン科
標本番号 1
植物名 コブシ
採集年月 昭和52年7月



花期 4～5月
生育地 林内
備考 浅間高原では春をつける木で
高さ10m内外である。花は小枝
の先に1個ずつつき、直径10cm
ぐらい、花弁は6枚で白色な花を
数多く咲かせる。和名は実の形
が子供の拳に似ているところから
きている。



科名 クスノキ科
標本番号 1
植物名 アブラチャン
採集年月 昭和52年9月



花期 4月下旬～5月
生育地 山地
備考 落葉低木。春、葉が出る前の枝に黄色いかたまり状に花がつく。葉は互生。同じ仲間のダンコウバイの葉は先が3つに分かれることが多いが、この葉は切れ込みがないので区別はつく。実は直径1.5cmぐらい、熟すと不規則に割れる。この実から油をしぼることができ、又油が多いので燃えやすい。



科名 クスノキ科
標本番号 2
植物名 ダンコウバイ
採集年月 昭和52年9月



花期 4～5月
生育地 山地
備考 山中に生える落葉小木。幹は高さ3～6m、直径18cmに達する。葉は先が3つに分かれることが多い。花は葉が展開するよりも先に淡黄色の小さな花をつける。同じ仲間のアブラチャンと混生するが、花のかたまりが大きく、枝が太くしっかりしているのも特徴。葉が見られるようになればはっきり区別できる。



科名 カツラ科
標本番号 1
植物名 カツラ
採集年月 昭和52年7月



花期 4～5月
生育地 山地
備考 山地に生える落葉高木で、高さ20mほどになり、しばしば1株で数本の幹を出すものもある。葉は対生で3～8cmの円に近いハート形。雌雄異株で両花とも葉の出る前に花弁もがくもない花が咲く。秋の黄葉が目立つ。浅間高原の湿地の林内では大きな株のものが見られる。



科名 キンポウゲ科
標本番号 1
植物名キ キバナノヤマオダマキ
採集年月 昭和52年7月



花期 6～7月
生育地 山地林縁・草原
備考 茎は高さ30～70cm。花は黄色で長さ2～3cmだが、基部は後ろに長く伸びて紫褐色の距となる。和名は苧環で昔、麻糸を巻いたものを花の形から連想し、命名した。



科名 キンポウゲ科
標本番号 2
植物名 サラシナショウマ
採集年月 昭和53年6月



花期 8～10月
生育地 山地林下・草原
備考 林の中や草原に生え、茎は高さ
40～150cm。葉は2～3回に分か
れて、花は20～30cmの穂状に
なる。



科名 キンポウゲ科
標本番号 3
植物名 トウゴクサバノオ
採集年月



花期 4～5月
生育地 山地の湿地
備考 高さ10～20cmの多年草。水平に広がる
果実の形から「鯖の尾」と名付けられた。
梅の花のような形の淡黄緑から白色の
径6～8mmの花がやや垂れ下がって咲く。



科名 キンポウゲ科
標本番号 4
植物名 ハクサンイチゲ
採集年月



花期 6～8月
生育地 亜高山帯の草地
備考 黒斑山附近の草地に生育。茎葉は4枚で輪生し柄はない。花は白色で径2～3cm。花びらのように見えるのはがくで数は5～7枚で一定しない。



科名 キンポウゲ科
標本番号 5
植物名 ハンショウヅル
採集年月 昭和52年7月



花期 5～6月
生育地 山地の林内
備考 山地の林内に生える落葉つる低木。
茎は木質で暗紫色を帯び、若枝や
葉に軟毛がある。葉は有柄で対生、
3小葉の複葉、小葉は長さ4～9cm。
花は初夏、枝上に束生する。鐘形
の紅紫色の花を半開し、しだれる。
がく片4で長さ2.5cmくらい、花弁は
ない。



科名 キンポウゲ科
標本番号 6
植物名 ボタンヅル
採集年月 昭和52年8月



花期 8～9月
生育地 陽あたりのよい原野
備考 陽あたりのよい原野に見られる落葉
つる低木。茎は長くのび太いもので
径1.5cm、葉は対生し1回3出複葉、
小葉の長さ3～6cm。花は夏、径1.5
～2cmの小花を円錐花序につける。



科名 キンポウゲ科
標本番号 7
植物名 ミヤマハンショウヅル
採集年月 昭和53年6月



花期 6～8月
生育地 高山・深山
備考 深山の針葉樹林のふちや高山のハイマツの中などに生える木質のつる植物で、葉は2回3出複葉で対生する。小葉は卵形または卵状披針形でふちにはあらい鋸歯がある。長い花柄を葉の間から出して濃い紫色の鐘形で長さ2.5～3.5cmの大きな花を1個つける。そう果は広卵形、花柱は長くのびて褐色を帯びた羽毛状になる。



科名 キンポウゲ科
標本番号 8
植物名 ヤマトリカブト
採集年月 昭和52年8月



花期 8～10月
生育地 山地
備考 山地の林の中などに生える多年草。高さは80～150cmになる。なかほどの茎葉は円心形で深く3～5裂し、裂片は披針形または卵状針形であらゝい鋸歯がある。オクトリカブトの変種で、青紫色の外側には曲がった毛が生え、内側にも曲がった毛とまっすぐな毛が生える。花の形が冠に似ている。



科名 キンポウゲ科
標本番号 9
植物名 ルイヨウショウマ
採集年月 昭和53年6月



花期 5～6月
生育地 山の木陰
備考 山地の樹下の陰地に生える多年生草木。高さは60cmぐらいになる。茎は直立し、葉は大形で2回3出複葉で短茎上に2～3個の葉がある。花は葉の中心から直立した1本の茎を出し、頂部に短い総状花序を出しやや多数の白色の小花をつける。果実は液果様で球形。黒く熟す。葉だけだとレンゲショウマ、サラシナショウマと良く似ており、区別が難しい。



科名 メギ科
標本番号 1
植物名 ルイヨウボタン
採集年月 昭和53年6月



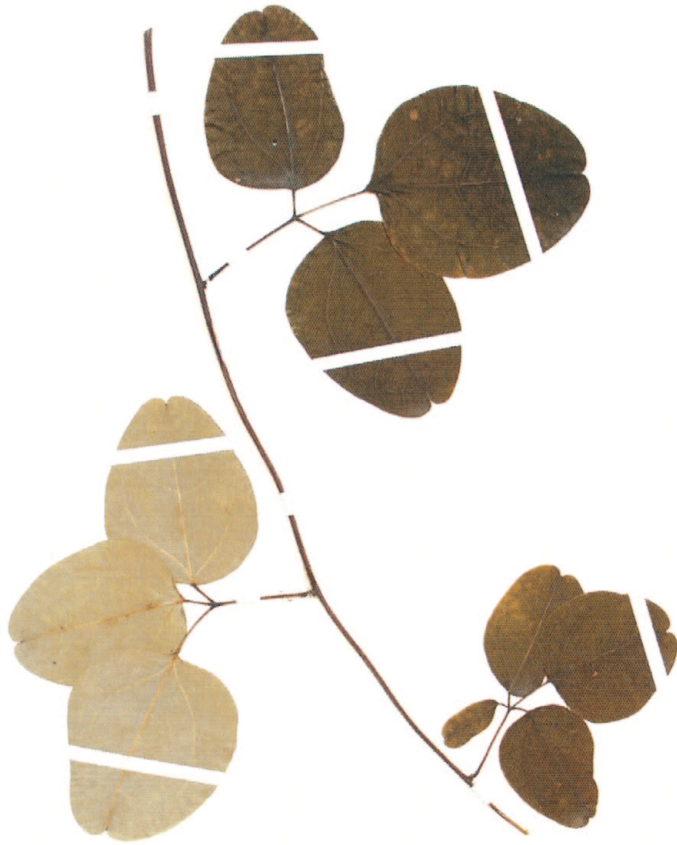
花期 5～7月
生育地 山の木陰
備考 浅間高原では比較的あちこちで見られる多年生草木。茎は直立して、高さは40～70cmぐらい。葉は3回3出複葉で互生。茎の頂部から円錐花序を出し、緑黄色の花を開く。ルイヨウとは「類葉」で葉がボタンの葉に似ていることから命名された。



科名 アケビ科
標本番号 1
植物名 アケビ
採集年月 昭和52年7月



花期 4～5月
生育地 山野・山地
備考 つる性の木本。
山地に生え、葉は5小葉の複葉。
4月頃淡紅紫色の花をつける。
果実は淡紫色で長さ10cm内外で
秋に熟して縦に割れる。果肉は
厚く、白色半透明で多数の黒色
の種子を含み、甘く美味である。
つるで椅子、籠などを作り、茎の
木部は漢方薬の利尿剤・消臭剤
などとする。



科名 アケビ科
標本番号 2
植物名 ミツバアケビ
採集年月 昭和52年6月



花期 4～5月
生育地 山地
備考 山や野に多いつる性の落葉植物で葉は3小葉の複葉。4～5月同じ茎に雄花と雌花が別々に咲く。楕円形の果実はアケビに似て成熟して裂け、白い果肉が見える。皮部は薬用となり、つるはバスケット・椅子などの細工用となる。



科名 センリョウ科
標本番号 1
植物名 フタリシズカ
採集年月 昭和52年7月



花期 4～6月
生育地 木陰や林床
備考 丈は50cmぐらい。4枚の葉が茎に
ほぼ十文字につく。
ヒトリシズカに対して命名された
ものと思われるが、花茎は2本と
は限らず、3本以上あるのもみか
ける。ヒトリシズカに比べて大柄
で木陰にひっそりと咲く。



科名 マタタビ科
標本番号 1
植物名 マタタビ
採集年月 昭和52年7月



花期 6～7月
生育地 山地林内
備考 落葉つる性の木本で高い樹にはい登る。葉は互生し、長さ6～15cm、葉面の基部はほぼ円形でハート形にへこむことはない。花時にこずえの葉の一部が白くなる。初夏に葉腋に下向きに梅の花の形に似た白色の花をつける。液果は熟すと黄色になり、食用及び薬用にする。



科名 オトギリソウ科
標本番号 1
植物名 トモエソウ
採集年月



花期 7～8月
生育地 高原の湿地
備考 湿った草地でよく見かけ、丈は1m近くにもなり分枝する。枝先に径5cmぐらいの花弁が巴の形になって黄色の花が咲く。オトギリソウに比べて丈が大きいのと花の特徴で見分けられる。



科名 ケシ科
標本番号 1
植物名 ヤマエンゴサク
採集年月 昭和53年5月



花期 4～5月
生育地 林の中・林の縁
備考 高さ10～20cmの多年草。葉は柄があって小葉1～3cmの複葉である。花は美しい青紫色。まれに白色のものがある。エンゴサクの仲間は花や葉に変化が多く見分けるのが難しい。



科名 アブラナ科
標本番号 1
植物名 オオバタネツケバナ
採集年月 昭和53年6月



花期 4～6月
生育地 湿地・川辺
備考 高さ20～40cmの多年草。茎は緑色でやわらかく、基部は地面をはい、やや束生するように見える。全株ほとんど無毛。葉は互生し羽状複葉で複雑な切れ込みがある。茎の先に白色の小さな花を20個ほどつける。和名は稲の種を水に漬けて田植えの準備をする頃に花が咲くのでこの名がついた。



科名 アブラナ科
標本番号 2
植物名 コンロンソウ
採集年月 昭和53年5月



花期 4～7月
生育地 山地や川辺
備考 高さ30～70cmの多年草。葉は長い柄を持つ羽状複葉。茎の上に花びら4枚の白い花が丸くまとまって咲き、印象的である。「崑崙草」と書く。



科名 アブラナ科
標本番号 3
植物名 ヤマハタザオ
採集年月 昭和52年7月



花期 5～7月
生育地 山野
備考 山野の陽あたりのよい所に生える越年生草木。茎は直立して高さ90cmにもなり、細長くまれに分枝し葉とともに毛が多い。茎の頂に白色小形の十字状花を直立した総状花序につける。和名は「山旗竿」。山地に生えるハタザオの意味。



科名 アブラナ科
標本番号 4
植物名 ワダソウ
採集年月 昭和53年5月



花期 5～6月
生育地 林内・林縁
備考 ハコベと同じ仲間である。茎は枝を分けず、高さ8～15cm。葉は対生し花は白色。花びらは5枚で桜のように先がへこむ。和名は和田峠に多いことから名付けられた。



科名 ベンケイソウ科
標本番号 1
植物名 ベンケイソウ
採集年月 昭和52年9月



花期 8～9月
生育地 草原
備考 草原などに生える多年草。茎は高さ
30cm～100cmになり、直立する。
葉は互生または対生、花弁は紅色。



科名 ユキノシタ科
標本番号 1
植物名 イワネコノメソウ
採集年月 昭和53年5月



花期 4～5月
生育地 沢沿いの湿地
備考 花茎の高さは3～12cmくらい。
花の特徴は、雄しべの葯がオレンジ色で大変きれいである。



科名 ユキノシタ科
標本番号 2
植物名 ウメバチソウ
採集年月 昭和52年8月



花期 8～10月
生育地 高原の湿地
備考 陽当たりのよい草地に生える多年草。
草丈は10～25cmで、茎の中央部に
無柄の一葉をつける。花は白色で2cm
あまり。和名は花が「梅鉢の紋」に似て
いるところから。



科名 ユキノシタ科
標本番号 3
植物名 コアジサイ
採集年月 昭和53年6月



花期 6～7月
生育地 山地の林の下
備考 山地の林の下に生える落葉低木で高さは1m内外。飾り花を持たないアジサイ。淡い紫色の花が煙のように3～5cmのかたまりになる。葉は互生で、上半部にはきょ歯が並んでいるが、下半部は全辺。



科名 ユキノシタ科
標本番号 4
植物名 ツルデマリ
採集年月 昭和52年7月



花期 7～8月
生育地 林内
備考 山に生えるつる性の落葉植物。
気根を出して他の木や岩などには
はい上がり、15m以上にもなる。
花は小枝の先に多数集まって
咲く。花の中央部には実になる
小さな花があり、その周りに飾り
花がつく。別名ツルアジサイ、
ゴトウヅル。



科名 ユキノシタ科
標本番号 5
植物名 ニッコウネコノメ
採集年月 昭和53年5月



花期 4～5月
生育地 沢沿い、湿地
備考 浅間高原の沢沿いの湿地によく大群落を作っているネコノメソウの一種。和名は割れた実がネコの目に似ているところから。イワボタンの仲間分類されているが、この仲間は同定が難しい。



科名 ユキノシタ科
標本番号 6
植物名 ネコノメソウ
採集年月 昭和53年5月



花期 4～5月
生育地 沢浴い
備考 水辺に集まって生える。高さ5～10cm。葉は対生し、葉柄がある。5mm前後の淡緑色から黄緑色の花が茎の先にまとまってつく。



科名 ユキノシタ科
標本番号 7
植物名 バイカウツギ
採集年月 昭和53年6月



花期 6～7月
生育地 山地
備考 落葉低木。高さ2～3m。葉は対生。たて3本の脈が目立つ。枝先に直径2.5cmくらいの4弁の花が対生につく。純白な花の感じが梅に似ているので、「梅花」の名がついた。



科名 ユキノシタ科
標本番号 8
植物名 ヒメウツギ
採集年月



花期 5～6月
生育地 山地
備考 落葉低木。高さ1m内外。葉は対生。細い枝先に1.5cmくらいの5弁の白い花が穂につく。ウツギよりも全体に細くてやさしい感じである。川原湯のハッ場溪谷では多く見られる。ウツギとは「空木」で茎が中空。



科名 バラ科
標本番号 1
植物名 アズキナシ
採集年月 昭和52年9月



花期 5～6月
生育地 山地
備考 落葉高木。高さ15m近くになる。
葉は互生。枝先に5弁の白花が
集まって咲く。
実は長さ8～10mmで秋に赤く熟す。
名は「小豆梨」で実がナシに似て
いて小型という意味。



科名 バラ科
標本番号 2
植物名 イヌザクラ
採集年月 昭和53年6月



花期 5月下旬～6月
生育地 山野
備考 高さ10m近くになる落葉高木。
 花は直径5～7mmの白い花が穂に
 なって、前年枝の横につき花の下
 に葉がないのでウワミズザクラとは
 区別できる。
 果実は黄赤色から紫黒色に熟し
 基部にがくが残る。



科名 バラ科
標本番号 3
植物名 カラフトイバラ
採集年月 昭和53年6月



花期 5～6月
生育地 山地
備考 高さは1mほどで、よく枝分かれする。葉柄の基部に1対の刺がある。葉は互生。花は3～4cmの淡紅色で、枝先に1～3個つく。果実は広い倒卵形、径1cm内外赤く熟する。別名ヤマハマナス。浅間高原ではあまり見られなくなってしまった。



科名 バラ科
標本番号 4
植物名 キジムシロ
採集年月



花期 5～6月
生育地 平地・山地
備考 平地・山地に最もふつうに見られる多年草。茎は数本ななめに立ち、つる状に伸びるものはない。根元から出る葉は5～7小葉からなり、花は黄色の5弁花でそれぞれの花茎上に多数つける。和名は「キジのすわるむしろ」になぞられたものという。



科名 バラ科
標本番号 5
植物名 クマイチゴ
採集年月



花期 6月
生育地 山地の道端
備考 山地の道端や荒地にふつうに見られる落葉低木。
茎は直立して高さ1~2m、とげが多い。葉は互生し、葉質はやや厚く、両面は無毛。初夏の頃、枝の末端に1~4個の白い花をつけ、核果は集まって球形となり赤く熟する。



科名 バラ科
標本番号 6
植物名 コゴメウツギ
採集年月 昭和53年6月



花期 6月
生育地 山地
備考 落葉低木。葉は長さ2~4cmの卵形で先がとがり、互生。花は直径4mmぐらいの白色で集まって咲く。和名は「小米空木」の意味で、ウツギに似た小さな花をくだけた米に見立てたと考えられる。



科名 バラ科
標本番号 7
植物名 サビバナナカマド
採集年月 昭和53年6月



花期 6～7月
生育地 山地
備考 落葉高木。葉は小葉が4～7対の羽状。花は6～10mmの白色で枝先に多数集まって咲くので、赤い実がたくさん集まった姿が美しい。
 サビバとは葉の裏に褐色の毛が生えていることによる。



科名 バラ科
標本番号 8
植物名 シモツケ
採集年月



花期 6～8月
生育地 日当たりのよい草地や礫地
備考 別名「木下野」で高さ20cm～1m
 の落葉低木。葉は互生。枝先に
 直径5mmの淡紅色の花が集まっ
 てつく。雄しべが飛び出して泡
 だったような咲き方が美しい。
 「下野」とは栃木県に多いところ
 からつけられた。



科名 バラ科
標本番号 9
植物名 シモツケソウ
採集年月



花期 6～8月
生育地 高原草地
備考 湿った草原に群れをなし咲くシモツケに似た花。丈は30～100cm。花のつぼみはピンクの小さな玉でこれが開くと花びらより長い雄しべが泡だったように広がる。



科名 バラ科
標本番号 10
植物名 ズミ
採集年月 昭和52年8月



花期 5～6月
生育地 林内・野原
備考 コナシともいわれ、リンゴの母種
であり、2～3mの高さになる。
若い枝にはトゲがある。花は蕾
のうちにはピンク色が強く、開くに
つれて白くなる。果実は3～7個、
散形につき紅色あるいは黄色に
なる。



科名 バラ科
標本番号 11
植物名 ダイコンソウ
採集年月 昭和52年7月



花期 5～7月
生育地 山野
備考 山野に生える多年草。茎は高さ60～
 100cmにもなり、粗毛が多い。初夏に
 小枝の先に数個の黄色の花をつける。
 根生葉は羽状複葉で、頂小葉が大形。
 和名は根生葉がダイコンの葉に似て
 いるからである。



科名 バラ科
標本番号 12
植物名 ニガイチゴ
採集年月 昭和52年6月



花期 5～6月
生育地 山野の荒地
備考 山野の陽あたりのよいところに生える落葉小低木。高さ30～90cm。葉は無毛。裏面は粉白色脈上とげがある。枝の先に1～2個の白色の花をつける。果実は球形、赤く熟し、甘いけれども少し苦味がある。



科名 バラ科
標本番号 13
植物名 ミツモトソウ
採集年月



花期 7～8月
生育地 山地の谷川のほとり
備考 山地の谷川のほとりなどに生える
 多年草。葉は互生して、3出複葉。
 茎は直立し高さ30～60cm。茎の
 頂に集散花序を作り、径1cmぐら
 いの黄色の花が咲く。



科名 バラ科
標本番号 14
植物名 ミヤマザクラ
採集年月 昭和53年6月



花期 5月下旬～6月
生育地 山野
備考 深山に生える落葉高木。高さは5～10m。葉は互生し、葉腋から総状花序を出し、数個の白色花をつける。花弁は5枚で水平に開き、がく片は反り返る。和名は深い山に生えるサクラの意味。



科名 バラ科
標本番号 15
植物名 モミジイチゴ
採集年月 昭和53年5月



花期 5～6月
生育地 山野
備考 各地の山野に生える落葉小低木。
高さは2mぐらい。とげがあり全体に
無毛。葉はやや掌状に3～5裂する。
花は下向きに咲く。花弁は白色。
黄色く熟した果実は食べられる。



科名 バラ科
 標本番号 16
 植物名 ヤマブキショウマ
 採集年月 昭和52年7月



花期 7～8月
 生育地 日本各地の山地
 備考 山地に生える多年生草木で雌雄異株。高さ1m内外、全く毛がない。葉は2回3出複葉で9枚の小葉をつける。7月頃茎の頂に円錐状の総状花序を作って、黄白色の花を密集して開く。和名は「山吹升麻」、小葉の形がヤマブキによく似ていて全草の形状がショウマの類に似ているから。



科名 マメ科
標本番号 1
植物名 イヌエンジュ
採集年月



花期 6～7月
生育地 山地
備考 山地に生えているが、庭にも栽植される。落葉高木。高さ9～14m。葉は互生し3～5対の小葉をもった奇数羽状複葉。葉柄や葉裏に細毛が密生する。花は夏、枝先に総状花序をつけ、黄白色の小形の蝶形花を密集して開く。豆果は長さ6～9cm、材は有用である。



科名 マメ科
 標本番号 2
 植物名 クサフジ
 採集年月



花期 7～9月
 生育地 山麓や野原
 備考 温帯や暖帯に分布する多年草。地下茎を伸ばし繁殖する。茎は丈夫なつる状で高さ80～150cmで初夏に長さ3～10cmの総状花序の紫色の花が咲く。後に豆果をつける。花と全体がフジに似ている。



科名 マメ科
標本番号 3
植物名 クララ
採集年月



花期 6～7月
生育地 山野の草地・川の土手
備考 多年草で、茎は直立し高さ80～150cm。
葉は15～30cmの小葉からなる復葉。
花は黄緑色の蝶形花で果実は長さ5～
8cm。根には毒性を持つと言われる。



科名 マメ科
標本番号 4
植物名 コマツナギ
採集年月



花期 7～9月
生育地 野原や道ばた
備考 道脇などに生える草状の小低木。
茎は細いが丈夫で多数分枝し、
高さ60～90cm。葉は互生し奇数
羽状複葉。花は夏から秋に長さ
3cmぐらいの総状花をつけ赤色で
ある。和名は駒繫ぎで茎は丈夫で
馬をつなぐこともできるという意味
を持つ。



科名 マメ科
標本番号 5
植物名 シヤジクソウ
採集年月 昭和52年6月



花期 7～9月
生育地 高原の草地
備考 浅間山から湯の丸山にかけての草地に分布する多年草。高さ25cmほどで、群がって生える。葉の付き方が車の軸のようなので、シヤジクソウと命名された。秋、赤色の蝶形花を球状にかためてつける。



科名 マメ科
標本番号 6
植物名 フタバハギ
採集年月 昭和52年8月



花期 7～9月
生育地 野山の草地
備考 山や野原に生える多年草。丈は30～80cm。茎は堅く四角の稜がはっきりしている。葉は互生して2枚の小葉をつける。花は紅紫色で美しい。若葉をアズキ菜と称して食用にする。和名「南天菘」はメキ科のナンテンの葉に似ている意味。別名フタバハギは2小葉だからの意味。



科名 マメ科
標本番号 7
植物名 ミヤコグサ
採集年月 昭和52年7月



花期 6～9月
生育地 野山の草地
備考 高地の草原に分布している。マメ科の多年草で、茎は束生し直立するがやや地に伏して横に伸びる。葉は互生し、有柄の3出複葉。黄色の小さな蝶形の花を2個ずつ開く。花がすがれると赤くなり、赤と黄の色が混じり合っ
て見事な模様を見せる。これをニシキミヤコグサという。昔、京都に多く見られたことから都草とも言われる。



科名 マメ科
標本番号 8
植物名 ヤブマメ
採集年月 昭和52年8月



花期 8～10月
生育地 林縁・原野
備考 ふつうなつる性の一年草。茎は左巻きで下向きの毛が生える。葉は互生し、3枚の小葉で出来ている。花は1.5cm～2cmの蝶形花で旗弁は紫色。よく弁や舟弁は白色に近い。豆果はへん平長さ2.5cm～3cm、幅7～8mm、さやのへりに沿い、ねた毛が並んで生える。種子はふつうは3個。



科名 フウロソウ科
標本番号 1
植物名 ゲンノショウコ
採集年月 昭和52年9月



花期 7～10月
生育地 山野の草地
備考 大変有名な古くからの薬草。
茎は高さ30～50cmになり、よく
分枝する。下部の葉は5裂し上
部は3深裂する。花は白色から
紅紫色で1～1.5cm。
古くから下痢止めとして用いら
れる。



科名 フウロソウ科
標本番号 2
植物名 タチフウロ
採集年月 昭和52年8月



花期 7～9月
生育地 草地
備考 花の大きさは2～3cmで、ハクサンフロウより少し薄いピンクで紫色のすじが入る。葉はハクサンフロウのほうが細かく裂けるので区別がつけやすい。



科名 フウロソウ科
標本番号 3
植物名 ハクサンフウロ
採集年月



花期 7～8月
生育地 高山の草地
備考 ゲンノショウコの仲間で花の大きさは2～3cmと大きく、美しいピンク色をしていて、高原を代表する花のひとつといえる。



科名 ミカン科
標本番号 1
植物名 キハダ
採集年月 昭和52年9月



花期 6～7月
生育地 各地の山地
備考 落葉高木。高さ25mほどになる。樹皮は淡黄褐色で厚いコルク質。葉は対生し長さ20～40cmで小葉5～13枚。雌雄異株。花は枝先に円錐花序となって黄緑色の細かい花をつける。液果は球形、黒く熟す。和名黄肌は幹の内皮が黄色いところからいう。内皮は苦みがあり胃腸薬とする。器具材としてもすぐれている。



科名 ガンコウラン科
標本番号 1
植物名 ガンコウラン
採集年月 昭和52年4月



花期 4月下旬～5月
生育地 高山の岩地・溶岩内
備考 小さいが、早春に赤い花を咲か
 せる木である。雌雄異株であり、
 雌株には黒くて丸い実をつける。
 実は甘みと酸味がある。
 黒豆川原や鬼押し出し溶岩内
 では、厳しい寒さに耐えた小さ
 な花を4月下旬から咲かせる。



科名 ドクウツギ科
標本番号 1
植物名 ドクウツギ
採集年月 昭和52年9月



花期 5～6月
生育地 川岸や陽あたりのよい山野の
道ばた
備考 山野の道端などに生える落葉低木。
高さ1～1.5m、枝は角ばる。葉は2列
に対生し、複葉のように見える。花は
葉より先に開き、果実は大きくなった
多肉の残っている花弁に包まれている。
はじめはエンドウ位の大きさの赤い球
形をしているが、あとでは紫黒色の実
になり、甘い汁を含む。もし誤って食べ
れば死にいたる。



科名 カエデ科
標本番号 1
植物名 イタヤカエデ
採集年月



花期 4月下旬～5月
生育地 山林
備考 カエデの中ではもっとも大きく、高さ25mにもなる。花は淡黄色で複総状。葉とともに出て立つ。葉は対生直径7～15cmで5～7裂する。葉には鋸刃がほとんどなく、秋には黄色く色づく。



科名 カエデ科
標本番号 2
植物名 ウリカエデ
採集年月



花期 5月
生育地 低山
備考 落葉低木で、高さは3～4m。
樹皮がウリの色に似た緑色を
している。
葉は対生。長さ3～7cm。若木
では葉が時に3裂するが、ほと
んど裂けない。花は小枝の先
に3～5cmの穂になり垂れて咲
く。色は黄色でよく目立つ。
実は赤く、羽は水平に開く。



科名 カエデ科
 標本番号 3
 植物名 ウリハダカエデ
 採集年月 昭和52年7月



花期 5月
 生育地 山地
 備考 山に多い落葉高木で高さは15m
 ぐらいになる。樹皮はなめらかな
 緑色で、マクワウリの実のはだに
 似ているのでこの名がある。
 葉は対生し長さ10～15cmの五角
 形、先は鋭く尖り、質はやや厚い。
 秋には赤く紅葉する。新葉が開く
 と同時に長さ5～10cmの穂になっ
 た花が垂れ下がって咲く。黄色で
 直径1cmほどである。
 実は羽を含めて2cm、2枚の羽の
 角度はほぼ直角に開く。



科名 カエデ科
標本番号 4
植物名 オガラバナ
採集年月 昭和52年8月



花期 6～7月
生育地 山地
備考 高さ5～10mの落葉小高木で、樹皮はなめらかな青灰色をしている。葉は対生し、長さ8～15cm、掌の形に5～7裂する。表面にはほとんど毛がなく、裏面には淡褐色の柔らかな毛が密生していて、白っぽくみえる。花は直径3～4mm多数集まって10cmくらいの穂になり、6～7月頃立ち上がって咲く。



科名 カエデ科
標本番号 5
植物名 チドリノキ
採集年月



花期 5月
生育地 山地・谷間
備考 山地に生える落葉高木で、雌雄異株。
葉は対生で、花は雄花は長い穂状花序となるが、雌花序は短い総状である。
カバノキ科のクマシデ、サワシバに似ているが、葉が対生であること、葉先が尾状に尖ることで区別できる。



科名 カエデ科
標本番号 6
植物名 ハウチワカエデ
採集年月 昭和52年5月



花期 5～6月
生育地 高度1,000m付近の山
備考 山地に生える落葉高木で、対生の葉は大きく円形で、直径7～12cm。掌の形に9～11に浅く裂け、縁には二重の鋸歯がある。花は若葉とともに出る。暗紅色で散房状に付く。秋には天狗のウチワのような葉が真っ赤に色づく。



科名 カエデ科
標本番号 7
植物名 ミツデカエデ
採集年月 昭和52年7月



花期 6～7月
生育地 山野
備考 山地に生える高さ5mぐらいの落葉高木。雌雄異株。若枝や花序に白い短毛がある。葉は3枚の小葉からなる複葉。花は晩春、10～20cmの総状花序。がく片花弁とも4個ずつある。翼果は長さ3cmぐらい、2枚の羽の開き角は狭い。和名は「三手カエデ」。



科名 カエデ科
標本番号 8
植物名 ミネカエデ
採集年月 昭和52年5月



花期 5～7月
生育地 亜高山帯
備考 亜高山に生える落葉低木または高木。葉は対生、長さ5～8cmで5つに裂け、鋭い鋸歯と切れ込みがあり、秋には真っ赤に紅葉する。



科名 ツリフネソウ科
標本番号 1
植物名 キツリフネ
採集年月 昭和52年7月



花期 7～9月
生育地 山の湿地
備考 ツリフネ草と同じ様な場所に生える一年草で、花は黄色。花の後ろに突き出て丸まっている部分は距と呼ばれる。葉の鋸歯はツリフネソウよりあらい。この仲間の果実は熟すとはじけて種子を飛ばす。



科名 ニシキギ科
標本番号 1
植物名 オオツリバナ
採集年月



花期 6月
生育地 山地
備考 大形の落葉低木。高さ数mになる。枝は円くて無毛、葉は互生。葉の基部は鈍角をなすか、またはややとがる。花は淡緑色で径約8mm、果実は球形で中央部の側面に5個の狭い翼が出る。ツリバナの果実は球形で翼がないので区別ができる。



科名 ニシキギ科
標本番号 2
植物名 コマユミ
採集年月



花期 5～6月
生育地 山地
備考 山地に生える落葉小低木で、葉は対生。花は黄緑色の小さな花を2～3個つける。さく果は深く基部まで分かれる。ニシキギに似るが茎にコルク質の翼が発達しないので区別できる。



科名 ニシキギ科
標本番号 3
植物名 ツルマサキ
採集年月 昭和52年7月



花期 6～7月
生育地 山地
備考 山地に生える常緑の藤本。つるは気根を出して他の木によじ登る。枝は円く緑色で不明の小凸起があつて平滑でない。花は2～4cmの柄のある集散花序を作つて淡緑色。径約6mm。果実は球形、4裂し中から橙赤色の仮種皮に包まれた種子が現れる。秋には果実が目につく。



科名 ニシキギ科
標本番号 4
植物名 ニシキギ
採集年月 昭和53年6月



花期 5～6月
生育地 山地
備考 山地に自生し、庭にも植えられる落葉低木。枝は緑色で無毛。後、コルク質の4翼が発達する。花は淡黄緑色、径約5mm、葉腋に出る小型の集散花序に1～数个つく。花弁は4個。種子は裂けると橙赤色の仮種皮に包まれた1種子が現れる。秋の紅葉が美しい。



科名 ニシキギ科
標本番号 5
植物名 ヒロハツリバナ
採集年月 昭和53年5月



花期 5～7月
生育地 山地
備考 山地に生える落葉低木。枝は円くてやや太く無毛。葉は対生。花は長い柄のある集散花序に10数個つき、淡緑色で径約6mm。果実はいちじるしく黄に水平にはりだした4翼がある。種子は赤褐色、黄赤色の仮種皮をもつ。



科名 ニシキギ科
標本番号 6
植物名 マユミ
採集年月 昭和53年6月



花期 6～7月
生育地 山地
備考 山地の樹林下に生える落葉
小高木で5mくらいになる。
葉は対生、花は緑白色で集
散花序にやや多数つく。秋に
なると実は淡紅色に色づき、
4個に裂けて赤い種子を裸出
させる。



科名 ミツバウツギ科
標本番号 1
植物名 ミツバウツギ
採集年月



花期 5～6月
生育地 山地のやや湿った場所
備考 山地に生える普通な落葉低木。
高さは3～5m。葉は対生し3小
葉からなる。若枝に白色の平開
しない7～8mmの花をつける。朔
果はふたつの袋が合わさった形
になる。



科名 クロウメモドキ科
標本番号 1
植物名 クマヤナギ
採集年月 昭和52年8月



花期 7～8月
生育地 山地
備考 つる性の落葉低木で、他の木など
にからみついて登る。茎は紫色を
帯びつるつるして硬い。小枝
は緑色で無毛。枝先に緑白色の
小さな花が円錐状に集まって咲く。
実ははじめ緑色で翌年に次の花
が咲くころ赤くなる。完全に熟すと
黒くなる。